

先日の子供との会話で、音楽CDを買いに行くことになり自分が『じゃあレコード屋さんへ行こうか』と言った途端に子供が『レコードって何?』説明するの一言苦勞した父親でした。皆さんも こんな事ありますよね(^^)

大町巡拝の旅 『仁科三十三番札所めぐり』

第12回目の『仁科三十三番札所めぐり』、二十二番札所の覚音寺かくおんじ、二十五番札所の盛蓮寺じょうれんじの紹介。

<二十二番札所 覚音寺 かくおんじ >

『むらさきの 雲のうてなか さきかかる 藤尾の寺の 花のさかりは』

二十一番札所の滝の入観音の前から、道は東の山中に入り、やがて滝の沢の谷から坂をのぼりつめ、峠を越えると相川新田村の盆地に下りる。盆地の下部の沼のほとりを通り、東に回りこみながら道を下っていくと藤尾集落になります。集落は台地の上にあり三方に山を背負ったふところのような村居です。維新の頃には11戸もありましたが、いまは覚音寺の他には焼き物作りの人が住むだけとなっています。この狭い台地上にも縄文時代や弥生時代の遺跡があり、古くから暖かい住みよい所であったようです。藤尾の地名は、あるいは藤の多く生えている尾根の意味からきたのかもしれませんが。ここに最初に寺院ができたのはいつのことかわからないが、本尊の千住観音像の胎内に納められた板札によると、本尊が施入された**平安時代の末よりずっと前から寺の存在が示されている**そうです。東山中の在地土豪の力によって開創された祈願寺で、寺の場所も現在の覚音寺よりも南方だったようで、衰退していった古寺を仁科氏の当主盛家が妻、男子、女子三人とともに、覚音寺を再興し本尊千住観音像を新たに造像して施入したとも木札に記されているそうです。**実はここにあげられた盛家一家の名が、確実な文献史料にあらわれた最初だ**そうです。千住観音像の特色である千本の手は、多くの場合左右各20手に作られます。覚音寺の場合もそうですが、現在は右手15本、左手7本を残すだけで、しかもその全てが後期の補修のもの。さらに頭上に載るいくつかの面は、頂上仏面だけが当初のもので、他の6面全てが後期の補修のもの、欠失したものもあります。長い年月の間に、地震や火災などの災害にたびたび会っているのでしょう。本尊の千住観音像には、四天王のうちの二天が脇侍として随伴しています。持国天立像と多聞天立像の二体で、どちらも本尊よりやや小さく造られています。いずれも甲冑を身につけた、仏法護侍の武神。侍国天は江戸時代の修理が著しいが、多聞天はもとの姿をよくとどめています。



<二十五番札所 盛蓮寺 じょうれんじ >

『にごる世に そまぬ心は 此の寺の きよきはちすの いろかならまし』



真言宗源花山盛蓮寺は、神宮寺がある宮本集落の北隣 曾根原集落の西のはずれにあります。集落の南に広がる水田地帯は、縄文時代から近世におよぶ五十(ごしょ)畑遺跡で、昭和58年には場整備事業に伴う緊急発掘調査が行われ、住居跡78軒、建物跡、墓跡などの遺跡、緑彩陶器、白磁といった当時貴重とされた遺跡が発見され、当時の曾根原の村居はここにあり、在地土豪の存在も推定された。盛蓮寺は現在とちがい、村落の北の端に位置していたこととなります。盛蓮寺は、もとは仁科氏とはたいへん関係の深かった、高野山照光院の末寺であったが現在は智積院末となっています。**盛蓮寺観音堂(重要文化財)**は、境内の東側のやや高い位置に西向きに建てられている。もとは少し北寄りであったが、昭和40年の解体修理のとき、位置を移した。堂全体が阿弥陀堂形式で、建築時代は室町中期で松本平最古の建物だそうです。本尊は木造如意輪観音坐像。鎌倉後期の作ですが、享保三年の大修理のため、像容が著しく変えられてしまったと言われています。尚、この寺には維新後に廃寺となった神宮寺から移された、不動明王立像、薬師如来

坐像や、虚空蔵菩薩坐像などの古仏が所蔵されている。また、この寺は現在地に移る前には、山寺にあったといわれ、さらに古くは大峯山の八合目あたりにあったと伝承があります。**山寺では昭和34年に蔵骨器(県宝指定)が出土しており、さらに平成15年には発掘調査が行われ、中世この谷間にあった寺院、僧坊、墓地の跡がみつかりました。**この寺はおそらくは仁科氏の祈願寺の一つであり、蔵骨器の主も仁科氏の関係者だったのではとされています。蔵骨器に納められていた火葬骨は、まとめて新しい骨壺に納め、墓誌をそえて盛蓮寺の歴代住職の墓地の傍らに葬られました。

新聞に載らない内緒話！

<スイスからのメール>

大学生の就職難が伝えられている。

1月18日の、厚生労働省および文部科学省が発表した「就職内定状況調査」によると、2011年春に卒業を迎える大学生の12月1日時点の就職内定率は、調査を開始した1996年度以降で最低の、前年同期比4・3ポイント減の68・8%だった、という。

一流企業志向など、さまざまな原因があるのだろうが、時代を担う若者たちが満足に就職出来ない現状は悲しい。どうか焦らず、チャンスを待ってほしい。

そんな中、先日「無事、現地に到着しました」という、スイスからの、うれしいメールを頂いた。メールの送り主、「彼」は昨年小社の入社試験を受けた。知人の紹介で、私も応援していたのだが、残念ながら筆記試験で落ちてしまった。当初、送ってもらった「彼」の、横文字だらけの履歴書に驚いた。高校時代からヨーロッパで生活し、その後アメリカの大学、大学院を卒業、教育関係を専攻し、学歴は申し分ない。

「もったいないんじゃないの。専攻違いの、ウチのような新聞社では。親御さんが泣くよ」と冗談を言ってみたら「スポーツにまつわる仕事をしたいんです」と聞く耳を持たなかった。年齢が20歳後半で、それも気になっていたのである。

長い海外生活からの帰国後、都内の大学でアルバイトのような仕事をして生活費を稼いでいたようだが、せっかくのキャリアも日本ではなかなか活かす職場がなく、苦労したようである。

小社の試験に落ちると「また元の仕事に戻ります」と連絡がきた。慰めのメールを送ってはみたが、所詮当事者ではない人間の言葉などさしたる助けにはなるまい。ただ「こうやってメールの交換が出来るのも何かの縁でしょう。次の仕事の展開が見えたら連絡をください」とつけ加えておいた。

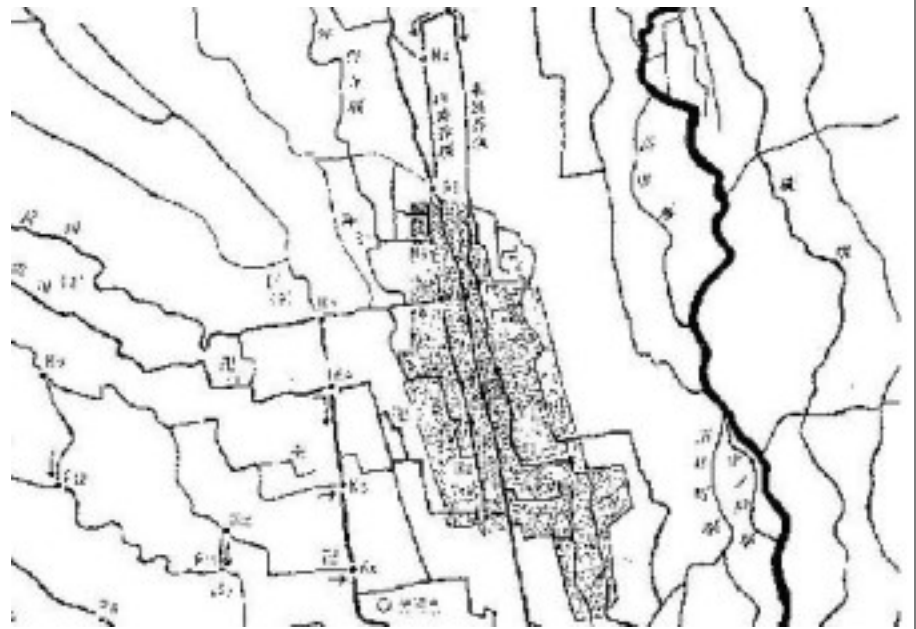
昨年暮、「あるパーティで、スイスの高校が職員を募集しているとの情報をもらいました。トライしてみます」とメールが届いた。どうなったかな、と気にかけていたのだが、どうやら進路が決まったようだ。

「仕事は来週月曜日からです。今は時差ボケ治しに努めています。仕事はまだ何を任されるか分かりませんが、一所懸命頑張っていこうと思います」と、メールにはあった。

ボンヤリ、彼の顔を思い出した。育ちの良さそうな、好青年だった。新たな人生のスタート。幸多かれ、と思う。

河川に関する情報募集！

ミニコミで連載してきました『大町巡拝の旅 仁科三十三番札所巡り』が次回(13回目)の連載で終了となります。そこでスタッフで以降の連載企画を相談したところ、大町の河川に関するシリーズはどうかとなり、早速準備にとりかかりました。しかし、簡単に考えすぎたか資料がなかなか見つかりません(-_-;)。そこで今回 読者の皆様方にお知恵をお借りしようとして情報募集告知となりました(^_^)~。



上の画像は『大町市史』に記載されていた河川地図

募集する内容は

川はいつ頃つくられた川ですよ！

川にはこんな逸話がありますよ！

河川に関する情報ならこの本がいいですよ！

この川は昔は木材を運ぶために使われたよ！

など川に関する情報でしたら何でも結構ですので よろしくお願い致します。また、電話やFAXではうまく伝えられないとお考えの際は、担当スタッフが直接情報提供されるお客様のお宅に訪問しますので、安心してご連絡ください(^_^)~。

連絡先：大町デリバリーサービス

電話 0120-030553

FAX 22-8402

まで

川村二郎の人間万歳

<星野哲朗さん>

星野哲朗さんが福島県いわき市の塩屋岬にいったのは、レコード会社に美空ひばりの歌を頼まれたからだった。太平洋に臨む塩屋岬は灯台がポツンとあるだけで、荒涼としていた。そこに一羽、カモメが舞ったメモ帳に、「カモメ一羽を見つけただけで、ほっと心にあかりがともる」と記した。このメモを見せてもらった時、「作詞家は、新聞記者と違ってメモがすでに詞になっている」と思ったが、こうして生まれたのが、美空ひばり晩年の傑作『みだれ髪』である。歌詞の中に、「春は二重に巻いた帯 / 三重に巻いても余る秋」という一節がある。恋わずらいで痩せたことを、直截な言葉は一切使わず、一度聴けば忘れられない歌詞にした。この話を作家の白州正子さんにすると、「日本には王朝和歌の伝統があるでしょ。その方はおわかりなのよ」と言われた。御本人が聞いたら、何と言われたらう。星野さんは、演歌を「僕はもともと船乗り志望でしたからね。潮の香りが好きなので、エンカは『塩歌』です」と言い、身を焦がすような『炎歌』と、官能的な『艶歌』、それに、歌うと元気が出る『援歌』と、使い分けていた。殴り書きした歌詞は朱実夫人が清書した。清書しながら、「あなたが書く、何をされても耐えてじっと待つなんていう女は、いるわけないわよ」と言った。しかし、夫人が「いい」と言う詞は売れなかった。『みだれ髪』は、夫人が褒めたうえにヒットした稀有(けう)な一曲である。

(有)大町デリバリーサービス松尾新聞店

大町市大町2675-7(ハローワーク大町すぐ近く!)

電話:フリーダイヤル 0120-030553

FAX 0261-22-8402

HPアドレス : <http://shimbun.web.fc2.com/>

